



夕刊

西日本新聞社
福岡市中央区天神一丁目
4番1号(郵便番号810)
©西日本新聞社1988年

昭和63年(1988年)3月7日 月曜日

展覧会

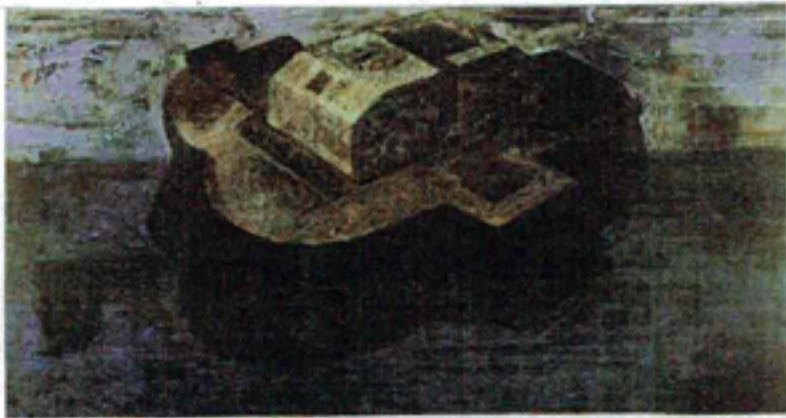
奇怪な廃 虚の風景

薄純一個展 21日まで、北
九州市戸畑区西刺ヶ谷町 北
九州市立美術館アネックス一
階、7、10日休館。

宗像市住居の二紀会委員で
安井薫展の常連。昨年十月の
紀伊国屋画展、十二月の東京
セントラル絵画館での個展と
精力的に活動しているが、今
回はこの十五年間の回顧展形
式。四十年代後半の明快な色
彩による超現実的な世界、五
十年代前半に描いた暗褐色の
風景に人物を配した奇怪なイ
メージの「風見」「風道」の
シリーズ、画家の名を法定的

なものにした「犬」のシリー
ズ、そして長崎・軍艦島を主
題にした近作と大作を主に四
十点を並べた大個展。

人生の重み、社会の苦悩を
背負ったような老犬が足をひ
きずる暗く深い緑色の画面。
この「犬」シリーズで将来を
定める画風を確立
したように見え
た。ところが、昨
年の暮から取り組ん
だ長崎・軍艦島を
テーマにした作品
では物体の姿はお
ぼろになり、四洋
も特異、日本の古い絵巻物の
的な遠近法を拒否
して平行線で風景
を構成する画法を
試みている。



が広がる、遠くに探険船がそ
びえている、かつて繁栄した
海底炭鉱が人間の都合で廃墟
とされた姿を、底深く暗い緑
色の画面で表現する。空に舞
う黒い鳥と手前に描かれた犬
の後ろ姿が不気味さを一層強
める。
画面の奥に行くほど形が小
さくなるという遠近法をどら
ず平行線で構成しているの
ぼろになり、四洋も特異、日本の古い絵巻物の
的な遠近法を拒否
して平行線で風景
を構成する画法を
試みている。

薄純となつて海
に浮かぶ軍艦島を
モチーフにした
「風見」「風道」
「風集」＝写真＝
不気味さがある作品もある。
と題した近作があ
る。縦二尺、横四
尺、七百号大の画
面、打ち捨てられ
た抗口や住居の跡
注目される。
(吉田)